

情報処理概論 Q&A

Q (用紙を縦に使うという) 作業は、「印刷の向き」から編集するのだが、私はこの作業を試行すらしなかったで、せっかくレイアウトのミスと気付いていたのならレイアウトの左上のすべてのカテゴリーの作業を 1 度は試しておくべきだったなと感じた。

A この段階で試すのではなく、テキスト p.43 の練習問題で、これらについて「実際に指定を行い、どのようになるのかを見ておこう。」というようにしましたので、この練習の段階で試しておくべきだったのではないのでしょうか。

Q フォント等の変換作業はミニツールバーのほうが慣れているため、もしかしたらダイアログボックスでちまちま設定するよりも、自分のやり方のほうが結果的に早いかもしれない。

A 何をやるかによりけりですね。ミニツールバー（あるいは ホーム のリボン）で行える内容ならば、それらを使った方が速いでしょうが、今回のように太い波線の下線や文字間隔となるとダイアログボックスを利用しないで実現できません。慣れてきて、その辺の見極めができるように慣れば、状況に応じて使い分けられるようになります。

Q 2 番目の段落の最初を 1 文字分インデントしていない。これは word の段落では普通、改行して 1 文字空けてから書き始めるということを徹底できていなかったことが原因だと考えられる。

A 違いますよ。元々は 2 番目の段落の先頭には空白が 1 文字入っていました。それを新たに 2 行目に氏名を入れる際に、2 段落目の本当の先頭、つまり空白の前にカーソルを移動し、Enter を押せばよかったのを、空白の後ろ、「ここから」の前にカーソルを持ってきた状態で Enter を押したので、空白が 1 つ前の行の最後に入ってしまったからです。また、段落の先頭を 1 文字空けるというのは Word の段落の話ではなく、日本語における段落で行われていることです。

Q 5 番目の段落の右端が全体的に解説と異なってしまった。これは、解説と全く同じ方法で行っていたため、なぜこうなったのかはわからないが、機器や環境による違いではないかと思われる。

A 提出された文書をよく見ると、5 段落の先頭が空白ではなく、1 文字分のインデントとなっています。元々の文書では空白が 1 文字入っていたのですが、何らかの事情でそれがなくなってしまったため、後から空白を入れたのだと思います。で、段落の先頭で空白を入れると、それが自動的にインデントの設定になってしまいます。この辺は、使いやすいと思うか、余計なお世話と思うかは人それぞれかとは思いますが、Word は意外とこうしたことを勝手にやるような設定になっています（設定を変更して、このようなことが起こらないようにすることも可能です）。空白 1 文字もインデント 1 文字も同じと思われるかもしれませんが、インデントの 1 文字は厳密に 1 文字なのに対して、プロポーショナルフォントの空白の幅は空く幅が調整されて少し狭くなったため、行の右端の文字が違って来たということです。今回の課題では、この程度のことは全く問題なしとしていますので採点には影響しませんが、こうしたことが起きているということは知っていても良いかもしれません（文書全体を綺麗に揃えるには空白を用いるよりも、積極的にインデントを用いた方が良いということになります。ただし、この問題は第 4 章の練習で、この段階ではまだインデントについて説明していませんでしたので、すべて空白で処理してあります）。

Q (㊸が) でできなかった理由としてはそもそもとしてそういった機能があることを知らずに課題を行ってしまったからです。

A この機能はテキストの p.47 の一番下の部分に説明があり、p.49 の練習問題の 2 番目でやるようになっていますが、この方の課題 3 を見たら、その部分はできていなかったですね。もう少し丁寧に説明を読み、練習問題を行ってください。

Q 最後の段落の改ページを 7 番目の段落の最後にカーソルを合わせて行ったため、最後の段落がページの先頭に来なくなりました。このミスの原因は、改ページをして次のページに移動させたい段落の前の段落の最後にカーソル

を合わせることでそこが区切りとなり、カーソルのある次の行から改ページが行われ、目的の段落が先頭になると考えていたからである。

- A 問題は改ページの操作法ではなく、段落の概念です。Word の段落の概念では最後に付いている段落記号までが含まれます。ですから、段落記号の前にカーソルがある状態で改ページを行うということは、前の段落の途中で改ページを行ったということになります。これにより、前の段落の残りの部分（段落記号だけですが）が改ページの結果次のページに送られるのは当然の結果となります。なお、段落の途中で改ページを行った場合、段落の最後には段落記号が無ければなりませんので、その位置に段落記号が補われます。この辺はテキスト p.42 の練習問題で、最初は段落の先頭で改ページを行い、次に段落の途中で改ページを行うということをやってもらいましたので、そこで注意深く何が起こったかを見ていれば分かるかと思います（っていうのはちょっと無理かな。でも、やっていることはやっているんですよ）。

Q (⑩で) 前の段落との行間の調整はうまくできたので良かった。

- A この方の場合、段落前の間隔を 0.5 行に設定していますが、0.5 行まで空けると、その前よりも明らかに行間が広くなってしまいます。ここは段落中の間隔と同様に、ボックス内を直接書き換え、0.2 または 0.3 行程度にしておく必要があります。

Q (⑩で) 拡大することで 10.6 と 10.7 が境界になっているとわかったのだが、同じ数値でも倍率によって欠けてしまうことが発覚したため、結局適切な行間が分からず 11pt で済ませてしまった。

- A テキストにも書きましたが、倍率を高めて欠けていなければ、基本的には印刷しても欠けません。

Q (⑩の) 問題解説では 10.7pt が限度だと書かれていたが、私は 10.3pt で「変」の文字が欠けないギリギリであった。0.4pt の差が生じる理由が分からなかった。

- A と言うことで図も付いていましたが、これは正に講義で説明したままのものです。図で示されたのは右図の左側、右側は 10.7pt の場合です。明らかに「変」の上の部分が欠けています。

亦亦

Q (⑩で) 表示倍率を上げるという発想に至らなかったのが悔しいし、勉強になったと感じた。

- A この辺を行うのに表示倍率を上げるということは、第 4 章の最後やオプション問題の解説に記載してありますし、講義でオプション問題の解説を行った際にも実際に表示倍率を上げた状態で説明をしました。

Q フッターは書き込んだ内容がすべてのページで結合してしまい、その修正に手間取った。

- A 要はページ番号が同じになってしまったということですよ。それを何とかしようとセクションで区切って実現します。まあ、総合練習を行う段階でできなかったのはともかくとして、自己評価においてもページ番号の機能についてまるで触れていない、できなかったことを自覚できていないのでしょうか。これでは自己評価を行ってもらう意味がありません。

Q (行間をギリギリまで狭めるということを) する機会はあまりないと思うが、やることがあればここまで細かくやらなくても、ある程度ちゃんと同じ段落で構成されているように見える程度には、行間の設定などをするようにしたいと思った。

- A 確かにそうなんですけれども、行間を詰めるために固定値などを使うことはそれなりにあります。その際に、うっかり文字欠けが起きていないように注意するということは必要でしょうね。

Q テストだけ対面でやるくらいなら講義も対面でやればいいのに、どうしても思ってしまう。

- A テストに関しては、他の人と相談せずに行っている、資料やネットの情報などを見ないで行っているなどを担保するため、対面で行わなければならないということは十分考えられます（私も仮にテストを行うならば対面でやる必要があると考えています。まあ、レポートもたくさんあるから、そこまでやらなくてもいいかということでやらないことにしましたが）。一方、通常の講義でどうしても対面でやらなければならない理由がないのならば、人が集まる機会

を増やせば、感染するリスクも増大するのは明らかですから、そちらはオンラインでというのがおかしいとは思えないのですが。

Q 大学には行ってからパソコンを使う機会が増え、Word やファイルの操作方法はもう知らないことはあまりないだろうと思っていたが、自分が今までやっていた方法より簡単な方法や知らなかった設定法などを知って、まだまだ学べることがたくさんあると思った。

A ちょっとくらい使っただけで「もう知らないことはあまりない」と思うのは早計すぎますよ。Word の機能だけだってテキストに書いてあるのは基礎的な使い方だけで、この何倍もの機能がありますよ。

Q 学務情報システムが使いにくい。

A ということで、具体的に何点が指摘されていましたが、この辺は直接、学務情報システムの問い合わせ窓口（アドレスは学務情報システムのログインページに記載されている）に伝えた方がよろしいかと思います。

Q 今回の課題では全体の体裁への配慮が求められていたため調べてみたが、記事ごとにずれがあり、どうすべきなのかわからなかった。

A 具体的にどういうことでしょうか。ちょっと何をおっしゃっているのかが掴めないのですが。

Q 僕は 2 年生で、入学してからすぐにオンライン形式の講義になってしまったので対面で普段どのように講義していたのか全くわからないのでその辺のところも知りたいと思った。

A この講義については基本的に変わりません。もちろん、大きな講義室で行っていましたが、黒板等は使わず、パワポをスクリーンに映して、説明を行っていました。実習部分も講義では、現在と同様、補足程度は行いますが、基本的には各自の空き時間でやってもらっています。大学に設置されている PC が使えるかどうか程度の差ですね。一番大きな違いは、学期末に講義で説明した内容（PC の操作部分は含まれない）についてペーパーの試験を行っていたことです。